

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム 2010

『4つの目で見守る生物多様性 — 長い目、<sup>そら</sup>宙の目、ミクロの目、心の目』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて公開シンポジウムを開催しています。今年は、東京及び京都において、「4つの目で見守る生物多様性 — 長い目、<sup>そら</sup>宙の目、ミクロの目、心の目 —」をテーマに、生物多様性の保全にかかわる当研究所の研究の一端をわかりやすくご紹介します。

<日時・会場>

○東京会場

開催日時：平成22年6月19日（土）12:00～17:00

開催場所：九段会館ホール（千代田区九段南1-6-5）

アクセス：地下鉄東西線・新宿線・半蔵門線「九段下駅」4番出口より徒歩1分  
JR飯田橋駅より徒歩10分

○京都会場

開催日時：平成22年6月26日（土）12:00～17:00

開催場所：シルクホール（京都市下京区四条通室町東入ル 京都産業会館8階）

アクセス：京都市営地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅より徒歩3分

<プログラム>（東京会場、京都会場とも共通です。）

- 12:00～13:00 ポスターセッション(13題)
- 13:00～13:10 開会挨拶 理事長 大垣 眞一郎
- 13:10～13:40 竹中明夫 「はじめに：多様な生き物を見守る視点」
- 13:40～14:10 高村典子 「危機に瀕する湖沼と池の生物多様性  
—モニタリングから見えてくる湖沼や池の生物の変化—」
- 14:10～14:25 休憩
- 14:25～14:55 河地正伸 「藻類の多様性 —環境問題から保全、そして利用—」
- 14:55～15:25 小熊宏之 「空からせまる生物多様性」
- 15:25～15:55 福島路生 「川の魚に対するダムの影響評価—北海道とメコン川を舞台に—」
- 15:55～16:05 閉会挨拶
- 16:10～17:00 ポスターセッション  
(内容は12:00からのポスターセッションと同じですが、この回には講演者も参加します。)

<ポスターセッション 発表タイトル>

1. 関東の川で琵琶湖の魚に会う-遺伝子を見てわかる国内外来生物-
2. 侵略的外来生物の生態リスク評価-カエルツボカビはどこから来たか？
3. 希少鳥類保全をめざしたバイオテクノロジー技術開発
4. 絶滅危惧種の遺伝的多様性保存に貢献するタイムカプセル化事業
5. 霞ヶ浦で発生するアオコ原因藻 *Microcystis aeruginosa* の季節変化について
6. ミジンコの耐性変異から環境汚染の大きさを測る-集団遺伝学的モニタリングの開発-
7. サンゴの異変-環境変動との関わりを調べる-
8. 熱帯雨林の減少・衰退による影響を評価する
9. 東アジアにおける草原の植物多様性-貴重な生物資源とその危機-
10. 空から見る湿地の植物の分布-航空機リモートセンシングに基づいた推定-
11. 干潟生態系の構造と機能, そこで暮らすいきもの達
12. 伊勢湾沿岸生態系における生物多様性と生態系機能評価
13. 人工湿地による環境浄化-多様な生物による排水処理-